

牧師所感： 大統領選に向け討論会 ー バイデン vs トランプ ー

去る6月27日夜、米国のジョージア州 アトランタで、次期大統領に出場予定の現職ジョー バイデン氏と 前大統領 トランプ氏の討論会が催された。

ところで バイデン氏は 討論会では 体調不良の故に、思う存分討論出来ず、全世界の視聴者の前で 失体を現わした。人々は 失態の原因を 高齢のために求めた。でも 本人の バイデン大統領は、高齢説を否定し続けて、次期大統領選に出場する旨を明らかにし『私が最もふさわしい人物だ』と述べた。

ところが バイデン大統領は、共和党だけでなく、民主党内でも次期大統領選 撤退を求める声に対して、きっぱりと撤退を否定した。

ところで 筆者が思うに、バイデン大統領は、現在もロシアとウクライナの戦争が終わっていない以上、ロシアに味方するトランプに政権を渡すことは出来ない という信念からだと思う。

他方 バイデン大統領の高齢に危機感を募らせる人々にとっては、あくまで 権力にしがみついて、他人に権力を譲れない人だと思ふ人もいよう。

ところで 6月半ばに バイデン大統領が ウィスコンシン州訪問では、バイデン支持者が圧倒的に多いことを新聞によって知った。「バイデン氏に投票するつもりだという人のほぼ全員が、その理由として、共和党のトランプ前大統領への反感を挙げていた。『恐喝者で、重罪犯で、嘘つきで、詐欺師で。彼ほど大統領にしてはいけない人はいない』」

さて 今日 世界の関心は、バイデン米国大統領の 次期大統領選の進退に集中しているようだ。7月3日の天声人語は、「ニュージーランドの首相を務めた ジョン・キー氏の辞任だ。8年前の記者会見で突然、『今が去るべき時だ』と表明した。当時55歳。3度の総選挙に勝ち、カリスマ的な人気があった」と。新聞の論調は 政治家に味方して、バイデン氏が大統領選から撤退すべきだとの声を、支持しているかに見える。

ところが バイデン氏は『私は進み続ける。』と 記者会見で、大統領選からの撤退を否定したと記す。

ところで 次の論調で バイデン氏に関係なく「権力を手放す決断には、生き方や哲学、流儀、利害や愛憎など『全人格』が凝縮されるそうだと。とも。

さて、筆者の祖国 韓国の初代大統領であった 李承晩氏は、4・19学生運動が勃発し、下野を迫る民衆蜂起に 立ちどころに同意し、下野したことを思い起こす。

以上 アメリカの大統領選の行方は、誰も知らない。だが ロシアとウクライナの戦争、イスラエルとハマスの戦争が、専ら 自国の繁栄のみに集中する指導者が退けられて、世界平和に寄与する指導者が現れるようにと祈る。